

甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとの連携を図りながら、同じ地域に生活する児童・生徒に対する系統的な教育の在り方を考える。

I 主題設定の理由

「地域の子どもは、地域で教育する」という基本理念のもと、同地域の子どもの育成に携わる教職員が、地域との連携の強化を図りながら、児童生徒の実態について深く理解し、小中の系統的な教育の在り方を研究するために、本主題を設定した。また、今年度も昨年度と同様に、甲州市の「確かな学力」育成プロジェクトとの連携を図りながら、研修を深めていきたいと考えた。

II 研究の内容

1 第1回ブロック研究会

(1) 日時 11月4日(水) 15:30~16:40

(2) 目的 勝沼小学校の授業の様子を中学校の教職員および他校の小学校の教職員が参観し、交流を図る中で、勝沼地区のブロック交流研究会としての成果や課題を明らかにし、連携して子どもたちを育てていく。

(3) 内容 小学校の授業の様子(VTR) 学習会

ア 授業の様子(VTR) 勝沼小学校

イ 交流会

「1・2学年分科会」「3・4学年分科会」「5・6学年分科会」

- ・校内研究の各校の成果と課題について
- ・各分科会の学年の子どもたちの様子(Q-U分析の結果からの実践)
- ・学習規律・生活習慣の各学校での取り組みの成果と課題
- ・小中連携に関して(授業や生活におけるそれぞれの意見交換)

III 成果と課題

- ・日程は、コロナ禍での開催を考えると、各校の様子を還流するにも、来年度に向けて小中の情報交換を図るにも、この時期(11月初旬)がよい。
- ・授業の様子は、コロナ禍でビデオとなったが、児童の様子がよくまとめられ、いろいろな取り組みをされていて、充実した教育が展開されていることがわかった。
- ・分科会は短時間であったが、小中の実態について交流することができてよかった。昨年度の申し送り事項の「話し合いの一つにキャリアパスポートについて入れる」ができた。どの学校も主に県教委から出されているものを使用していることがわかった。
- ・口頭での発言が多く、一番大切な小中の意見交換が少なかったので、校内研究の概要等、伝えてわかることは紙媒体での提案にして、交流の時間を確保していきたい。

(ブロック長 相川和彦)